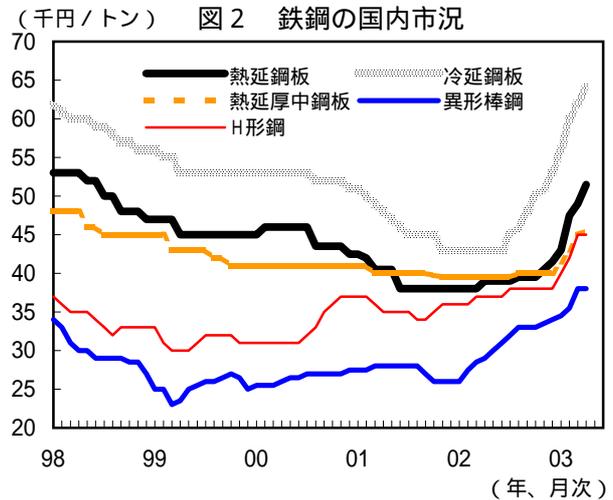
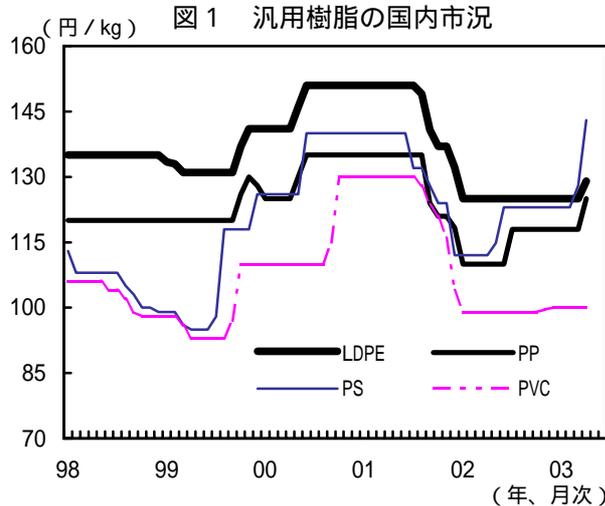


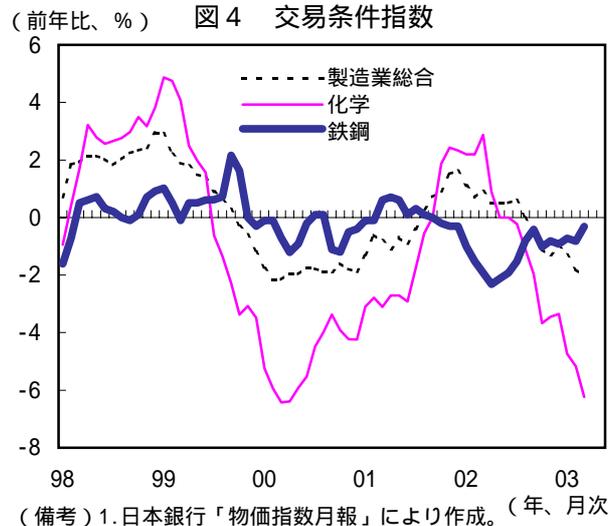
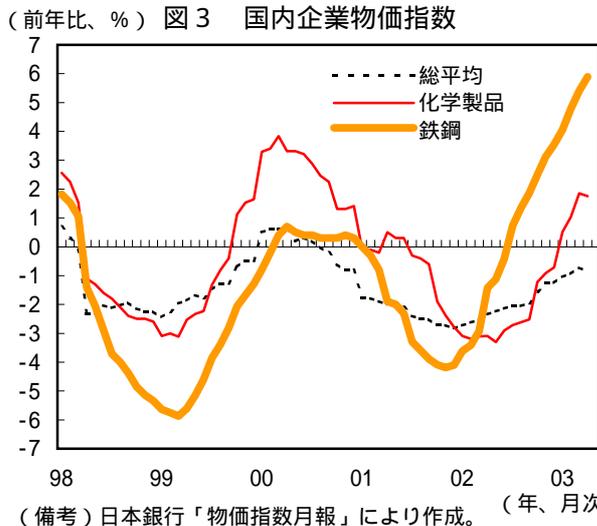
素材産業にみる市況改善と原料コスト上昇

- ・石油化学工業の国内商品市況が上昇してきた。これまでの石化原料のナフサ価格上昇等をうけ、年初から続いた国内樹脂の値上げ交渉が決着し始めたことを反映したのだが、足下でナフサスポット価格やアジア樹脂価格が軟化したことから、今後は需要家側からの値下げ要求圧力が強まるとみられる。しかし、4 - 6月期の国産ナフサ価格は騰勢を強めていた1 - 3月期とほぼ同水準で推移する公算が大きく、化学メーカーは採算確保のために製品価格維持の姿勢を強めている。
- ・一方、鉄鋼業では、需給バランス改善とともに製鋼原料の鉄スクラップ価格上昇もあって、これまで国内商品市況は上昇を続けてきた。しかし、足下での鉄スクラップ価格反落に伴い、H形鋼や異形棒鋼などの建設用鋼材価格の先高観が後退している。さらに、流通在庫が増加するなど業界全体でも需給逼迫感が一服し始めたことなどもあり、鋼鉄類の一本調子の上昇基調もやや鈍ってきている。
- ・国内企業物価指数の下落が続く中、化学、鉄鋼、紙・パルプなどの素材産業が物価上昇を続けている。しかし、これらの交易条件指数(産出物価/投入物価)は前年割れを続けている。これをみ限りでは、素材メーカーは現下の原料コスト上昇に見合った産出価格の引き上げが実現できていないといえる。原油価格が低下に転じるなど投入コスト上昇に歯止めはかかってきたものの、現状の産出価格の水準維持が必要だといえよう。
- ・このような状況の下、素材メーカーの間では製品価格維持のために減産を検討する動きが広まってきている。こうした動きとともに、SARSの影響などによるアジア経済への先行き懸念もあって、堅調に推移していた素材産業の生産動向にも不透明感が漂いつつある。



(備考) 1. 日経産業消費研究所「日経商品情報」ほかにより作成。
2. 東京一般標準タイプ需要家渡し。
3. LDPE・HDPE・PP・PS：粒状、PVC：粉状

(備考) 日本鉄鋼連盟「鉄鋼需給関連指標」
鉄鋼新聞社「鉄鋼新聞」ほかにより作成。



(備考) 日本銀行「物価指数月報」により作成。(年、月次)

(備考) 1. 日本銀行「物価指数月報」により作成。(年、月次)
2. 交易条件 = 産出物価 / 投入物価。

[調査部(産業調査担当) 埴 賢治]